

大谷

HAKODATE OTANI



函館大谷学園報
2019 October

vol.25



かけがえのないわたし

学校法人 函館大谷学園 理事長 門 間 佳 一

昨年度は創立130年の節目を意識し、「かけがえのない「わたし一人」の発見と自覚」という建学の精神を改めて深く見つめつつ運営に携わってまいりました。

思いますに、時の流れのなか家族構成や地域の在り方も変化し、家族間にも様々な問題を抱える時代となつてまいりました。先日、NHKの番組で「PTIC」(親子相互交流療法)が紹介されておりました。加茂登志子医師のもと、こころや行動に問題を有する子供(主に2~7歳)と育児に悩む養育者の両方が一緒に受ける心理療法です。母子のコミュニケーションが上手いれない親や、育児によるストレスを抱えた母親が子供と一緒に受診しております。二世帯・三世帯が同居する時代には、祖父母・曾祖父母のふれあいの姿が母親のお手本となつていたのでしょうか。それに比べ現在は、日本女子大学社会福祉学科教授 林浩康氏の言葉をお借りすると「孤立した育児」と言うことなのでしょう。核家族化が増加している現状にあつて、母親の育児によるストレスなどが幼児虐待の一因とされる現代に、その虐待の予防ともいえる支援かと存じます。

本学園の建学の精神で、「かけがえのないわたし一人」と申していますが、私がそうであるように相手も同じくかけがえがないのです。そういう立ちどころ世界観だからこそ、互いに認め合い尊敬しあうことが成り立つわけです。尊厳が見えてくるわけです。相手を自分の思いどおりに求めず、条件を付けずに受け入れ出会っていく。

大谷専修学院 狐野秀存学院長は「みなさん、お母さんがおられますね。そのお母さんのおなかの中から「オギャー」といって生まれたとき、みなさんはなにか注文を付けたでしょうか。おそらく無条件だったと思います。「このお母さんのお腹から産まれていいものだろうか」と、そんなことを考えて産まれてきた人は誰もいません。この世に与えられた自分のいのちを無条件にすべてお

母さんに任せていたでしょう。そして、お母さんが身籠つたいのちを大切に育て、やがて時が満ちて私どもはこの世に産まれてきました。つまり、自分を全面的にお母さんに任せて、信頼して、この世にいのちを受けたわけです。お母さんの方もそうなのです。子どもを産むときに、「この子はちゃんと親孝行してくれるだろうか」などということも思つて子をお産みになるお母さんは誰もいないと思います。とにもかくにも産まれてほしいと、ただひたすら子のいのちそのものを思つて産むわけです。産んでくれるお母さんも無条件、産まれてくる私どもも無条件です。お互いにすべてを任せて私どもはこの世にいのちを受けているのです。ちょうど阿弥陀如来と私どもの関係もそのようなことと言えるでしょう…」(月刊『同朋』)このように述べられております。

生まれてきたとき既に私たちはそういう出会いをしていたのです。そのことに気づかせ、見直させてくれる教えが、当学園の理念と精神の根底に流れる親鸞聖人の教えであります。

思春期を迎えている年代である高校受験者がここ数年増加傾向にあります。当学園の建学の精神に触れ、一人でも多くの方が「かけがえのないわたし一人」に目覚め、自らの子にその心を託す一助に、この学園があることを願いました。目指すところでもあります。



短期大学



ひとと ずっと いきいきと



函館大谷短期大学紹介

本学は、道南地区の企業への就職を通して、地域創生を目指すコミュニティ総合学科と、道南地区において、質の高い保育者の育成を目指したこども学科からなります。従来、学園報では、学生の活躍をメインに紹介して参りました。

本年は、これまでの学園報の趣向とは少し変え、学生を支援している先生方が、日頃どのような教育・研究活動を行なっているか、紹介することとしました。

イラン・イスラーム共和国にて調査を行いました!

こども学科 小山 貴博先生

この度、日本私立学校振興・共済事業団 若手研究者奨励金を取得するに至りました。当方の専門は「イラン女性の子育て観」です。この奨励金を元手に、イランに赴きました。

今回の調査は、国内をあちこち飛び回りました。イラン女性の子育て観は、「性善説」に限りなく近く、「7つまで神の子」を元来有している日本と極めて類似しています。

ところで、イランに赴くと、必ず「キミはどこからやってきた?」と聞かれます。日本と答えると、目をキラキラさせて「すばらしい! ヒロシマ、ナガサキをはじめ、あれだけアメリカにやられても、経済大国となった。同じアジア人として誇りである!」と良く聞かされます。丁度、安倍首相もイランを来訪し、ドラマ「北の国から(イラン名:Sarz zamine Shomali)」が視聴率70%を超えた矢先でした。

経済大国の是非はさておき、日本から遠く離れた国の人々が、我が国について、尊重して頂いていることは、多くの日本人は知りません。

一市民として、自分はどうかあるべきか。こうした問いはきっと終わることがないでしょう。



(調査にご協力頂いた、国立モアヘッグ・アルダビール大学文学部の先生方とともに)

保育者のストレスに関する研究をしています!

こども学科 藤村 敦先生

普段短大では保育士などを目指す学生に、教育心理学や障がい児保育などを教えております。その関係もあり、現在は保育者のストレスに関する研究を主に行っています。若い保育者にとって保護者への対応は、難しい仕事の1つです。どのような考え方をもつと、保護者対応に関するストレスと上手に付き合っていくことができるのか、心理学の立場からストレスが起きるメカニズムを明らかにするとともに、ストレスを減らす方法を見出すことが研究の目的です。現場の先生方のお話を聞かせていただき、その知恵をまとめていきたいと思っています。研究の積み重ねが、これから保育者を目指す学生や地域の先生方の力になることを願っています。



(学会発表の時の様子)

キャリア教育と学習成果に関する研究

コミュニティ総合学科 濱嶋 幸司先生

私は本学科でキャリアデザイン科目を担当しており、キャリア教育と学習成果の研究をおこなっております。また、低年次のインターンシップ・プログラムの効果について、いくつかの大学での取組を調べるなど共同研究をおこなっております。これらの研究により、大学と企業とが連携した地域に貢献できるキャリア教育の開発を目指しています。さらに近年では「コミュニケーション能力」が授業、インターンシップ、サークル活動といった大学生活のどのような場面で身に付くのか関心を持っております。過去10年をみると学生自身が積極的・能動的に学習(アクティブ・ラーニング)する場面が多くなりました。現代の大学生が成長する場面について教育、研究の立場から探っております。

高等学校



THE DAY SURELY COMES ～その日はきっと来る～



令和元年、生徒の登校時の姿

校長 丸山 政秀

最近、玄関で生徒の登校する姿を見て、1年生女子の制服のスカート丈が長く膝が隠れるくらいの生徒が増えています。とても初々しく、見ていて微笑ましく思っているところです。

また、部活動などで頑張っている生徒が怪我をしてしまい松葉杖をつけて登校する姿が見受けられますが、玄関で勉強道具などの入ったバッグなどを持ってあげている仲間がいたりします。このような微笑ましい姿を見るたびに、思いやりのある生徒たちに感激している今日この頃です。



新任教員からの一言

教諭 1学年担任 新保 雄太

私は今年度から、1年生の担任とサッカー部のコーチを務めさせていただいています。高校生の頃から教員になりたいという夢を抱いており、今回夢を叶えることができたことに日々、感謝の気持ちでいっぱいです。

教員として初の年度に1年生の担任、部活動の指導者であることに日々、迷いや不安な気持ちを抱く日々の連続ですが、毎朝元気に登校してくる生徒の顔を見て、自然と活力が湧いてきます。

私は4歳からサッカーを始め、19年間サッカーに携わってきました。人生のほとんどをサッカーに費やしてきましたが、その中で「多くの人からの支え」を強く感じてきました。試合や練習が当たり前に来ている裏では、多くの人々の支えがあります。赴任して約半年ですが、生徒や周囲の先生方からの支えがあるので今の私があります。支えていただいていることを当たり前と思うことなく、感謝し、生徒たちと共に学び、一教員として成長していきたいと思えます。



青稜祭を終えて

生徒会長 土谷 玲愛

今年の学校祭は、新しく令和になり、昨年とは一味違う学校祭にしようと思い、様々なプレッシャーと戦いながら準備を進めてきました。思い出が残るように各クラスの出し物のクオリティを上げることを目標としていました。その結果、お化け屋敷などのアミューズメントが増え、クオリティも上がり、生徒や一般の方からも高評価を得ることができました。そして今年もサプライズゲストとして歌手のサスケさんと武田舞彩さんに来ていただきました。サスケさんは二回目ということもあり昨年以上に盛り上がりました。武田舞彩さんはとてもかわいらしく、生徒全体が大盛り上がりでした。

沢山の不安を抱きながらもゲスト2組や全校生徒、見に来てくださった保護者の皆さんのご協力で思い出に残るような学校祭にすることができました。これからの青稜祭も楽しく盛り上げて伝統を受け継いでいってほしいと思います。



附属認定こども園



笑顔あふれる楽しい毎日!!
みんないっしょにおおきくなろう!



流しそうめん おいしいね!!



大きいお兄さん、お姉さんたちが夏休みの中、毎日元気にこども園に登園していた未満児のお友達。

8月6日に夏の雰囲気存分に楽しむため、流しそうめんを行いました!

はじめに、2歳児のお友達が挑戦!今年も、ベランダで栽培した野菜、トマトやきゅうりなどがたくさん収穫できたので、そうめんと一緒に流しました。2回、3回と繰り返していくうちに、どんどん上手にすくうことができ、嬉しそうな表情がたくさん見られました!そんな2歳児のお兄さん、お姉さんたちの姿を見ていた1歳児のお友達は、先生と一緒にはりきって流しそうめんに挑戦しました☆先生と一緒にそうめんをすくい、お口にぱくっと入れた後の表情はにっこりかわいい笑顔♪いつもと違う雰囲気の中、外で食べるそうめんの味は格別だったようです。0歳児のお友達も流れてくるそうめんをじっとみつめて興味津々な様子!十分に雰囲気味わい、先生と一緒に美味しく食べることが出来ました♪

そうめんを食べた後は、みんなでスイカを食べました!お友達や先生と一緒に、流れてくるそうめんを目で見て楽しみ、食べて楽しみ、甘くておいしいスイカも楽しみ、思いういっばいの夏の1日でした。



楽しくておいしいキャラメル工場♪

6月11日、年長組が園外保育でキャラメル工場に出掛けました。工場見学では、普段食べているキャラメルが平らに伸ばされている様子に「すご〜い!」と驚く子どもたち!キャラメルが四角い形になったり、箱詰めされたりしていく過程に、「次はどうなるのかな?」とワクワクしながら見学する姿が見られました。見学通路にはサイコロのボタンが…!!ボタンを押すと、工場内のチューブを通してサイコロキャラメルが届きました!楽しくて嬉しいお土産に子どもたちも大興奮でした♪



そして、キャラメルだけではなく、工場の方からチョコレートについても教えて頂きました。原料となるカカオ豆の模型を触ったり、カカオとチョコレートの匂いを嗅いで違いを感じたりと、見るだけではなく、実際に触れながら色々なことを知ることができました。豆からチョコレートができることを知って驚く子どもも多く、普段食べている身近な物に興味・関心をもつことのできた良い経験となりました。



命のつながり ~ハクセキレイ 誕生から巣立ちまで~



毎日子どもたちの元気な声が響いている中庭。ある日、「先生!また鳥が来てる」と言う子どもたちの先には、ハクセキレイがいました。毎日遊びにくるハクセキレイですが、なぜか毎日すべり台の下の囲いの中に入っていくのでそっと覗いて見ました。すると、そこにはかわいい口が三つ…!ハクセキレイの雛が三羽孵っていました。飛んでくるハクセキレイの口元をよく見ると虫を加えていて、餌をあげるために一生懸命運んでいたのです。

毎日観察をしていると、人間の成長とは違い、すぐに巣から自分の足で出るようになり、

毛も生え変わり、外の世界に興味をもち動き出す成長が数日の間で見ることができました。雛が孵り2週間がたとうとしている日。子どもたちも降園し、静かになった中庭に、鳥の声だけが響いていました。そこでは、頑張ってる飛ぼうとする雛鳥と「大丈夫だよ」と言っているかのように先導している親鳥の姿がありました。壁にぶつかりそうになると、飛ぶ方向を教えに来る姿、とまっていると、もう一度飛んでみよう誘ってくる姿は、子どもを思う親の気持ちが溢れていました。そのまま次の日には巣立っていきましたが、今でもたまに中庭に遊びに来てくれます。あの時のハクセキレイかな…♡



松前認定こども園



はじける笑顔 松前っ子!!
みんなともだち。この指と~まれ!!



楽しいお誕生会!

個性豊かな先生達が演じる劇は、絵本にはない、実は台本にもないアドリブが満載!個性が強い「シャープペンのお兄さん」や、1本ずつ性格が違う「クレヨンくん」が登場します。

子どもたちは、クレヨンの描いた絵が1つずつ増えていく度に「ちょうちょだ!」「チューリップだ!」と指を差して盛り上がり、クレヨンを呼ぶ場面では一緒に「青く〜ん!」「水色ちゃ〜ん!」と元気な声で呼んでいました。

その日の帰り、絵本コーナーでは年長組が「くれよんのくろくん」の絵本を手に取り、興味津津で読んでいたようです。子どもたちにとって、思い出に残る誕生会になりました。



天の川で保育室を飾ろう

普段の自由画帳よりずっと大きな画用紙に先生も子どもも集まって、腹ぺこあお虫や雪だるま、魚と水、友達の顔など、好きな絵を自由に描きました。描いている最中の子どもたちは賑やかながらも真剣そのもの。自分の手の届く場所に、自分だけの物語を作っているようでした。



最後に青い絵の具を塗ると、クレヨンで描いた模様が絵の具から顔を出し、素敵な天の川に大変身!七夕飾りと一緒に、保育室の天井を飾りました。



松前町の七夕は地域によって7月と8月に分かれています。8月の七夕が終わり、保育室の天井に飾ってあった絵は現在、絵合わせカードのおもちゃ箱になって保育室を彩っています。



町内会のお祭り参加!

大漁旗の法被を着て、「こども園よさこいソーラン祭」と「よっちゃよれ」の2曲を町内の方々に披露しました。



町内のお祭りに参加するのは、初の試みでしたが、毎年練習している踊りを披露することに喜びを感じながら、練習に一生懸命取り組みました。



当日は、初舞台に緊張する様子も見られましたが、大勢のお客さんの前で、「どっこいしょ!」という元気な掛け声、堂々とした踊りを披露することができました。また、町内の方々にも喜びを与えることができ、子どもたちにとっても、良い経験になったと思います。

年長組は、町内の行事や施設慰問などでも、園生活で取り組んでいる踊りや歌を披露する機会がたくさんあり、今後も松前町の人々に元気を与えていきたいと思っています。



大野幼稚園



遊びが基本!!自然あふれる幼稚園
心も身体ものびのびと…



みんなの元気をお祝いしてワッショイ!!

自然に囲まれた広い園庭からは、涼しい風が保育室に吹きぬけ、子どもたちのところへ秋の匂いを運んでくれます。2学期がスタートし、園内には、「ピピピッわっしょいっ!」と響き渡る元気な声。大野幼稚園では、毎年8月28日に、北海道最古の神社でもある意富比神社のおまつりに参加しています。今回は雨天のため、後日園庭でお祭りごっこをして楽しみました!

今年の年長組は、アラジンとトイストーリーの山車を子どもたちと手作りしました。アイデアを出し合いながら試行錯誤を重ねて、完成したお神輿は迫力満点!赤い法被とねじりはちまきをして、おまつりごっこの始まりです♪

笛の音に響き合う元気な大野幼稚園の子どもたちの掛け声が、お神輿を担ぐ年長組のパワーになり、みんなの足取りも軽やかです!最後は元気音頭をみんなで踊り、楽しい1日を過ごす事ができました!



牛舎見学へ、レッツゴー!

年中組で大野農業高校へ牛舎見学に行きました。「何色の牛がいるかな?」「牛さん、かじらないかな!？」と楽しみにしながらもちょっぴりどきどきの子どもたち!



「黒色の牛さんがいる!」「大きいね!」と大興奮な様子が見られました!他にも豚や羊もおり、間近で見たり、えさをあげたりする中で「かわいいね♪」と動物に触れることができました。

また、高校にいる豚が大きくなったら、みんなが食べているお肉になることを知り、「かわいそう…」と話していましたが「かわいそうだね。でも命をいただくことで、みんなは大きくなれるんだよ。」と高校の先生に教えてもらった子どもたち。ごはんを食べる前に、感謝の気持ちを込めて「いただきます」という意味を知る機会となりました。



大野幼稚園創立50周年記念 ピアノコンサート

創立50周年を迎えた大野幼稚園。7月12日に伊藤亜希子先生をお招きしての記念ピアノコンサートでは、遊戯室が素敵な音に包まれました♪作曲者のクイズもおりませながら「きらきら星」や「エリーゼのために」を聞いた子どもたちは一気にその世界に吸い込まれたようです!サプライズでは毛利先生がアラジンの曲を連弾したり、アンコールではみんなが大好きな曲「パプリカ」をピアノをかこんで大きな輪になって歌ったり、踊ったりしました。曲のリズムに合わせて一緒に手を叩いて演奏を楽しんだり、歌って踊る子どもたちの輝かしい笑顔が印象的でした。思い出に残る、とても素敵な記念ピアノコンサートになりましたよ。



港認定こども園



かわいい笑顔と笑い声 みんないっしょでたのしいね!



笑顔キラキラ☆七夕まつり

「たけーにたんざく、たなばたまつり♪」七夕になると子どもたちの元気な歌声が園内に響きます。子どもたちが一番楽しみにしている「ろうそくもらい」です。毎年七夕の日には、0・1歳児はクラスごとに、2～5歳児は異年齢の混合チームで園内を回ります。「次はさくらさんのお部屋に行こう!」と、大きい組さんがリーダーシップをとり、小さい組さんの手を引いて、お世話をしてあげる優しい姿がたくさん見られます。笹の葉には、子どもたちの願いが込められた短冊と、今日の日のために一生懸命作った笹飾りが飾られています。また、遊戯室の壁面には年長児が共同製作で作った“天の川”が飾られ、園内も華やかです。

七夕の集いでは、年長さんがハンドベルで“きらきらぼし”を演奏してくれました。一人ひとりがしっかりと自分の音を奏で、素敵な演奏を披露してくれました。演奏の前はドキドキした表情だった年長さんも、演奏を終えて小さい組さんからたくさんの拍手をもらって、可愛い照れ笑いを浮かべていました。七夕に向けて笹飾りを作り、ベルの練習に取り組んだことにより、七夕まつりへの期待感が高まり、より一層楽しむことができたことと思います。お星さまに負けたくない、キラキラ笑顔いっぱいの楽しい夏の思い出となりました。



夏だ!暑いぞ!!水遊び

じりじりと太陽の光が照り付ける、夏がやってきました。キラキラ水しぶきが眩く、みんなが笑顔いっぱいになれる水遊び。今年の夏は例年以上に暑く、大好きな水遊びを思う存分楽しむことができました。



中でも、水遊びの途中で食べるかき氷は大人気!いちご・ぶどう・メロン・ブルーハワイの中から、自分で好きな味を選びます。お友達と「おいしいね」と言い合ったり、舌の色を見せ合ったり。子どもたちの肌に鮮やかな小麦色の水着の跡を残し、笑顔がはじける夏になりました。



みんなで園外保育たのしいね!

子どもたちは園外保育が大好きです!普段のお散歩はもちろんですが、春にはお花見やいちご狩り、秋には函館山登山やりんご狩りなど色々な所へ出かけ、楽しんでいます。毎年恒例の遠足も楽しみにしていて、5月は昭和公園、6月にはバスに乗って競馬場へ行きました。

遠足で楽しみにしているのは、なんととっても大きな遊具で遊ぶこと!大きな遊具は子どもたちの冒険心をくすぐり、普段は経験できないダイナミックな遊びへと挑戦させます。グラグラ揺れるはしごや、真っ暗トンネル、クモの巣のようなアミなど、一人ひとりが物語の主人公にでもなったかのように、力いっぱい遊びを楽しんでいました!





広げよう学びの友を つなげよう未来の友に



同窓会を終えて

同窓生の皆さまお変わりなくお過ごしのこととお察し申し上げます。

日頃、皆さまには函館大谷学園同窓会に多大なご支援ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

今年は全国各地で暴風雨や台風など自然災害が多く、不安な日々が続きましたが、早くも朝夕初秋を感じるこの頃です。

さて、元号が「令和」にかわりました。明治、大正、昭和そして平成と時代が流れ、明治21年に「六和女学校」として創立された本学園は平成30年に創立130年を迎えました。私立学校として充実した環境の中で母校の発展が同窓生として、これほど喜ばしいことはございません。しかし、新時代は少子高齢化の中、「人生100歳時代」と言われ厳しい運営が想定されますが、充実した教育・保育の実践を目指すためにも私たち同窓生が環境づくりに協力しなければならぬと思います。

今年と同窓会総会・懇親会は9月13日に函館市内ホテルで開催されました。当日は約130名が参加され、短期大学・高等学校の教職員の方々にも出席いただきました。

総会に先立ち門間佳一理事長よりご来賓のご挨拶を頂き、学園の運営状況や同窓会東京支部すずらん会へ出席された様子などの話がありました。

その後総会に移り、議長指名後、平成30年度活動報告・決算報告がなされ引き続き令和元年度の活動報告(案)・予算(案)が提案され全て満場一致で承認されました。また今年度は役員改選期でありましたが、現状役員で継続することが決定しました。

函館大谷学園同窓会 会長 濱野 幸子

総会終了後の懇親会では短期大学の福島憲成学長のご挨拶で、毎年会場に掲げられる「伝統」の旗についてふれられました。伝統は150年の歴史を超えて初めて言われることで、函館大谷学園は創立131年であり、これからどんな時代になっても地域に求められる役割を誠実に言い、伝統という旗にふさわしい歩みを続けていかなければならないとご挨拶されました。

懇親会は短期大学の先生の司会で進行し、なごやかに進み、恒例となっております第三回生の長谷さんの創作踊りが披露され、今回も鎌倉にてパン工房を営んでいる男子一期生より沢山のパンを贈って頂きビンゴゲームで盛り上がりました。

お陰様で令和最初の同窓会総会・懇親会は無事終了いたしました。この度は短期大学の先生にご尽力をいただきました。誠にありがとうございました。

最後に、より多くの方が総会及び懇親会に参加して下さるよう、卒業生に呼びかけをお願いしたいと思います。

母校の益々の隆盛と同窓生、学校関係各位の皆さまのご多幸をお祈り申し上げます。 令和元年10月1日



学 園 人 事

<p>【退 職】 2019年3月31日付 函館大谷短期大学 助 教 細川 隆史</p> <p>函館大谷高等学校 教 諭 栗林 一寿 教 諭 小林 三郎</p> <p>函館大谷短期大学附属認定こども園 保育教諭 木浪 志穂 保育教諭 渡邊 麻有</p> <p>函館大谷短期大学附属松前認定こども園 保育教諭 松村 瑞樹</p> <p>函館大谷短期大学附属大野幼稚園 教 諭 小笠原 彩 教 諭 岩谷 奈那美</p>	<p>函館大谷短期大学附属港認定こども園 保 育 士 木村 美樹</p> <p>2019年6月30日付 函館大谷短期大学 事務局次長 熊崎 康子</p> <p>2019年8月31日付 函館大谷短期大学附属大野幼稚園 教 諭 長谷川 莉沙</p> <p>函館大谷短期大学附属港認定こども園 事務職員 田中 亜里紗</p>	<p>【採 用】 2019年4月1日付 函館大谷高等学校 教 諭 栗林 一寿 教 諭 新保 雄太</p> <p>函館大谷短期大学附属認定こども園 保育教諭 長崎 奈苗 保育教諭 菊池 希望 保育教諭 清 奈乃果 保育教諭 長谷川 真尋 保育教諭 村田 結衣 保育教諭 西郡 佐智子</p> <p>函館大谷短期大学附属松前認定こども園 保育教諭 木村 里美</p>	<p>函館大谷短期大学附属大野幼稚園 教 諭 長谷川 莉沙</p> <p>函館大谷短期大学附属港認定こども園 保 育 士 坂口 莉子 保 育 士 門田 沙樹</p> <p>2019年4月19日付 函館大谷短期大学 講 師 濱嶋 幸司</p> <p>【昇 任】 2019年4月1日付 函館大谷短期大学 事 務 長 小川 貴史 (短期大学課長)</p>
---	---	--	---

※()内前職

財務情報の公開

当学園の平成30年度財務情報については、公式ウェブサイトで開催しております。
http://www.hakodate-otani.jp/finance_2018.php

編 集 後 記

今回の学園報は、Vol.25となります。昨年は創立130周年を迎え、まさに節目の年が続いております。今後とも、同窓をはじめ地域の皆様はもちろんのこと、学園に携わって頂いている皆様に、学園の「今」をお伝え出来れば幸いです。

(短期大学 小山)

◎ご意見募集…みなさまのご意見、ご感想をお寄せくだされば、うれしく思います。

題 字 理事長 門間 佳一

発 行 学校法人 函館大谷学園

編 集 学園報編集委員会
〒041-0852 北海道函館市鍛冶一丁目2番3号
TEL 0138-51-5614 FAX 0138-52-6494
E-mail honbu@hakodate-otani.ac.jp

編 集 委 員 樋口 也寸志 佐渡 敦美 小町 唯信 小山 貴博
木戸口 靖之 萩澤 芽生 笹田 栞 泉山 直子

表 紙 写 真 平成30年に真宗大谷派函館別院で行われた、函館大谷学園・函館大谷高等学校創立130周年記念報恩講

<http://www.hakodate-otani.jp/>

